

## 6. 参考資料

### 6. 1 NPO 等 10 団体の参考情報

#### (1) 一般社団法人 ISHINOMAKI2.0

(参考) CANPAN FIELDS

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1046799167>

より作成

#### <基礎情報>

団体名	一般社団法人 ISHINOMAKI2.0
代表者名	松村豪太 (代表理事)
住所	宮城県石巻市中央 2-10-2 新田屋ビル 1 F
設立年月日	2011 年 5 月 30 日
法人格取得年月日	2012 年 2 月 14 日
中心となる活動地域 (県)	宮城県
最新決算総額	約 4 千数百万円 (平成 26 年度)
役員数・職員数合計	スタッフ 6 名、理事・その他 20 名
団体の概要	共感による柔軟なつながりにより、多様な立場の方がそれぞれのしがらみにとらわれず参画できる体制。
ウェブページ	<a href="http://ishinomaki2.com/">http://ishinomaki2.com/</a>

#### <活動概要>

活動分野	場づくり、にぎわい創出、移住促進、情報発信、コミュニティ創出
設立以来の主な活動実績	東日本大震災を契機に、地元の商店主・NPO 職員などと外部の研究者・建築家・クリエイターなど専門的知見に富んだメンバーがつながって、震災前に戻すのではなく、もともと抱えていた地域の課題を解決し、バージョンアップしたまちをつくるべく、草の根的、実験的な実践型のまちづくりを行ってきた。 これまでに STAND UP WEEK 2011/2012 の開催、フリーペーパー石巻 VOICE の発行、ガレージを手作りでリノベートしたコワーキングスパー

	ス IRORI 石巻の開設・運営、雑誌をテーマにしたコミュニティスペース コミュニティカフェかめ七の開設・運営、石巻経済新聞の発行、復興バー の設立・運営、ラジオ番組 RealVOICE の製作、街歩きマップの製作、IT 開発拠点イトナブの設立の他、様々な子どものためのイベント、セミナー・シンポジウムなどを開催している。
団体の目的	地域の資源を丁寧に拾い、これまでと違った視点から、様々な団体・個人 へとつなげることで、石巻をより開かれた、創造性にみちた富んだまちへ とバージョンアップさせる。
団体の活動・業 務(事業活動の 概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コワーキングスペース IRORI 石巻の運営</li> <li>● フリーペーパー、WEB 経済新聞の発行</li> <li>● スタディツアーの実施</li> <li>● 各種調査の実施、提言の作成</li> <li>● ワークショップ、セミナーなどの開催</li> <li>● ラジオ番組の製作</li> <li>● 高校生への IT 出前授業</li> </ul>
現在特に力を 入れているこ と	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コワーキングスペース IRORI 石巻の運営</li> <li>● 復興まちづくりのための調査・提言</li> <li>● 学びをテーマとしたビジターズプログラム</li> <li>● 観光・環境をテーマに牡鹿半島をはじめとした地域の調査</li> <li>● プレーパークなど、子どものための場所づくり</li> <li>● 中瀬地区をはじめとした、被災地域の活用に関する提案</li> </ul>
今後の活動の 方向性・ビジョ ン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学びをテーマとしたプログラム、「いしのまき学校」により、石巻の 交流人口増加を図るとともに、課題解決型の人財育成を行う。</li> <li>● 遊休不動産の調査・活用プログラム「2.0 不動産」により、定住人口 増加、新しいライフスタイルの提案を行う。</li> <li>● 各種調査、勉強会を開催し、復興まちづくりのための提言を行う。</li> </ul>
定期刊行物	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フリーペーパー石巻 VOICE (現在 4 号発行)</li> <li>● 石巻経済新聞 (ウェブ新聞)</li> </ul>
備考	—

## <活動実績>

- 1) 助成金・補助金・物品等、他の組織から受けた支援の実績
  - 平成 24 年度宮城県新しい公共の場づくりためモデル事業
  - トヨタ財団 2011 年度地域社会プログラム「特定課題」
  - 日本財団 RoadPROJECT
  - PROJECT KIBOU
  - 三菱商事復興支援財団 復興支援助成金
  
- 2) 他の NPO・市民活動団体との協働、他の学協会との共同研究・協働の実績
  - 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター
  - NPO 法人オンザロード
  - NPO 法人 MAKE THE HEAVEN め組ジャパン
  - 一般社団法人みらいサポート石巻
  - 子どものための石巻市民会議
  - 一般社団法人非営利芸術活動団体コマンド N
  
- 3) 企業・団体との協働・共同研究の実績
  - 東京工業大学：調査、出版物制作、ワークショップ開催など
  - 武蔵野美術大学：ワークショップ開催など
  - 東北大学：調査など
  - 石巻専修大学：合同ゼミの開催など
  - 石巻コミュニティ放送株式会社：番組の製作
  - 有限会社オンデザインパートナーズ：調査、共同プロジェクト実施など
  - ハーマンミラージャパン：合同ワークショップの開催
  - ワイデンアンドケネディトウキョウ：出版物の製作など
  - 株式会社電通：セミナー事業の開催など
  - 株式会社街づくりまんぼう
  - 株式会社ヤフージャパン
  
- 4) 行政との協働（委託事業など）の実績
  - 石巻市：行政と市民活動団体の連携に関する勉強会の開催など

## <最近の動き>

- 1) 石巻 PR サイト「NEXT HERO ISHINOMAKI」リリース（2018 年 1 月 25 日）  
[http://ishinomaki2.com/new\\_42.html](http://ishinomaki2.com/new_42.html)

ISHINOMAKI2.0 も参加するコンソーシアム ハグクミの石巻PRサイト「NEXT HERO ISHINOMAKI」がリリースされた。<http://nexthero.jp/>

震災をきっかけに新しいことにチャレンジする人が急増した石巻。石巻はチャレンジができる街であり、そんな街から生まれたチャレンジとヒーロー達を紹介するサイト。

2) KAIIKA Awards 2017 特別賞受賞 (2017年12月13日)

[http://ishinomaki2.com/new\\_38.html](http://ishinomaki2.com/new_38.html)

ISHINOMAKI2.0 が日本能率協会の定める KAIIKA Awards において、「特別賞」を受賞。

[https://www.jma.or.jp/news/release\\_detail.html?id=488](https://www.jma.or.jp/news/release_detail.html?id=488)

チャレンジが“花開く”組織の取組を称え、応援する表彰制度で、「個の成長、組織の活性化、組織の社会性」を同時に実現していくプロセスを KAIIKA と定義し、2011年から始まった。今回の受賞理由は、教育事業、コミュニティづくり、移住支援などを通じて継続的に街の文化的な発展に寄与した事が評価された。

3) 釜石×気仙沼×石巻 合同シンポジウム「ローカルシフト」@仙台 (2017年11月19日開催)

[http://ishinomaki2.com/new\\_34.html](http://ishinomaki2.com/new_34.html)

ISHINOMAKI2.0 がコンソーシアムハグクミとして参加する「ローカルベンチャー推進協議会」では、全国 9 自治体がタッグを組みローカルベンチャーの育成を目指している。その参加自治体であり同じ東北東海岸に位置する釜石、気仙沼、石巻が共同で仙台にてシンポジウムを開催。キーノートトークにはジャーナリスト津田大介氏が登壇。

4) 石巻 2025 会議開催 (2017年9月21日)

[http://ishinomaki2.com/new\\_33.html](http://ishinomaki2.com/new_33.html)

石巻の未来を話し合う「石巻 2025 会議」を開催。「ローカルベンチャー」「地域包括ケア」「移住」「観光」の4つのテーマを絞り各分野のイノベーターが一同に介し議論を行う。オープニングイベント (2017年9月24日) とクロージングイベント (2018年3月17日) を合わせて6回開催予定。

## <展開中の事業>

1) 石巻移住ガイド事業

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under01.html](http://ishinomaki2.com/projects_under01.html)

震災から1年で延べ28万人のボランティアが訪れた石巻。彼ら・彼女らの中にはそのまま残っている方も少なくない。起業したり、漁業をはじめとした既存産業を楽しみながら従事したりする彼ら・彼女らはまさに「移住先駆者」と言える。そうしたライフスタイルを

紹介し、空き家ストックの調査・活用や地域の「生業（なりわい）」と結びつけることを通じ、石巻を暮らすべき場所として「選択」してもらえるようにするプロジェクト。

## 2) いしのまき学校

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under.html](http://ishinomaki2.com/projects_under.html)

石巻エリアの高校生が街で学び、「若者に力を与える街」を目指して新しい発見をする時間を創ることを目的に実施。石巻の未来を創っているおもしろい大人たちの仕事場や活動現場をフィールドに赴き様々な体験をし、そこで得た気づきやアイデアを様々な方法で共有・発信。また、自分達の興味や街の「～だったらいいな」を掛け合わせ、自分たちの可能性を広げるプロジェクト。

## 3) IRORI 石巻

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under02.html](http://ishinomaki2.com/projects_under02.html)

当初、照明もないガレージを石巻工房とアメリカの家具メーカー「ハーマンミラー」の職人たちの協力で改修し、まちに開かれた公共的な場所へと生まれ変わった。世界中から人が集まり、思いを語り、時には共にお茶を飲み、未来へのアイデアを紡いでいく。「再生と革新のための交流の部屋=Interaction Room Of Revitalization and Innovation」

## 4) 復興バー

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under03.html](http://ishinomaki2.com/projects_under03.html)

数人の仲間たちが天井まで浸水した店を DIY<sup>31</sup>で改装し、2011年7月にオープン。10人も座れば満席になる小さな店だが、石巻の人たちと世界中から石巻を訪れた人たちが熱い会話を交わしている。壁にはマスターの思い絵が一面に描かれ、世界でここにしかない交流の場がある。誰でも気軽に店主になれる「1日マスター制度」もあり、PRの場としても活用されている。

## 5) 石巻 まちの本棚

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under04.html](http://ishinomaki2.com/projects_under04.html)

石巻の中心市街地の経済的衰退と共に姿を消したまちなかの本屋さんに代わり、石巻まちの本棚は本好きが集まるための新たな拠点として誕生。本の貸出や古書販売を軸に、イベントなど、本に関するあらゆるコミュニケーションも実践している。またネット古書店やブックカフェ、出版社など、本に関わる仕事を志す人が増えることを目指している。被災地に本を送る活動を続ける「一箱本送り隊」との共同事業として 2012年夏の一箱古本市を契機に開始した。

---

<sup>31</sup> 英語の Do It Yourself（ドゥ イット ユアセルフ）の略語で、「自身でやる」の意。

## 6) 2.0 ラジオ RealVOICE

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under05.html](http://ishinomaki2.com/projects_under05.html)

「石巻の今」をお届けするラジオ番組。パーソナリティは ISHINOMAKI2.0 代表の松村豪太氏。石巻の様々なフィールドで活躍するゲストを迎え、その人の魅力に迫る。「石巻ともしっかりつながる、石巻をもっと好きになるラジオ RealVOICE」は毎週水曜日、お昼 12 時 30 分よりラジオ石巻にて好評 ON AIR 中。

## 7) 2.0 不動産

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under06.html](http://ishinomaki2.com/projects_under06.html)

「新しい目線で持続可能な石巻再生を目指す」というキーワードで動き出したプロジェクト。石巻中心市街地は震災前より空洞化の問題を抱え、各店舗には跡継ぎがなく、まちなかは高齢化。しかし、震災後にのべ 28 万人のボランティアが石巻を訪れ、彼らの一部は社会的事業を起こし、このまちに残ろうとしている。被災した物件を抱え、改修にお金が出せないために貸すことを躊躇する大家さんと起業家や居住者をマッチングさせるサービスを提供。

## 8) 復興公営住宅入居におけるコミュニティ形成支援業務

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under07.html](http://ishinomaki2.com/projects_under07.html)

震災により、住み慣れた地域から仮設等へ移住されていた方々が、復興公営住宅という今後自分たちが住み続ける地域に移り住んだとき、数多くの課題や不安がある。ISHINOMAKI2.0 は石巻市から委託を受け、そうした復興公営住宅入居者のコミュニティ形成に石巻市と協働で取り組んでいる。

## 9) 手作り CM プロジェクト

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under08.html](http://ishinomaki2.com/projects_under08.html)

東日本大震災からの復興を頑張る石巻の商店に、アーティストによる手づくり CM をプレゼントした。お店の人や現地の人たちに笑顔と元気を届け、日本中の人たちにも興味を持ってもらい、石巻を応援しようというプロジェクト。2012 年 2 月から現在までに番外編等を含め 25 本の作品を制作。現在は制作の裏舞台を紹介する新聞連載や作品の DVD 化、CM 制作ワークショップ等、活動はより立体的になっている。作品は「Youtube」でも公開中。

## 10) STAND UP WEEK

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under09.html](http://ishinomaki2.com/projects_under09.html)

毎年夏に開催される石巻人の誇りとも言えるお祭り「川開き祭り」を更に盛り上げようと、2011 年より毎年、祭までの 1 週間を「STAND UP WEEK」として、石巻の可能性を探る様々なイベントを開催。世界中からクリエイティブなアイデアと知恵を持ち寄り、まちを

外へ開き、人と人を繋ぎ、巻き込んで作る、まちの未来を描くまちづくりウィーク。ここから様々なプロジェクトが生まれ、石巻の日常に定着している。

#### 1 1) みちのく潮風トレイル

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under10.html](http://ishinomaki2.com/projects_under10.html)

環境省による、東北太平洋沿岸地域に 700km にわたってコースを整備するみちのく潮風トレイル事業。ISHINOMAKI2.0 も地域の皆さんや専門家と協働しながらこのトレイルコースの活かし方や利用者のもてなし方を考えるお手伝いをしている。

#### 1 2) コミュニティプロジェクトの種

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under11.html](http://ishinomaki2.com/projects_under11.html)

ISHINOMAKI2.0 では石巻のコミュニティ形成に関わる課題や取組を定期的に共有や勉強する場を設け、ISHINOMAKI2.0 流のアプローチで、どのように地域コミュニティをよりよくしていくかを常に考えている。この場からコミュニティ形成に関わる様々な面白いプロジェクトが生まれている。

#### 1 3) ISHINOMAKI 金曜映画館

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under12.html](http://ishinomaki2.com/projects_under12.html)

ISHINOMAKI 金曜映画館は、再会の場であり、新しい出会いの場でもある。映画上映をきっかけに、人と人が集い、新しいコミュニティが生まれ、まちなかに活気が生まれる。そんな場を石巻のまちなかに作りたいと考えている。様々な市民が参加して、市民自身が上映者＝観客となる「わたしのまちの映画館」となることを目指している。

#### 1 4) 2.0 出版

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under13.html](http://ishinomaki2.com/projects_under13.html)

2.0 出版は ISHINOMAKI2.0 による出版プロジェクト。ここから石巻の魅力や資源、少しずつ変化していくまちの様子を発信している。2013 年 12 月には第 1 弾となる「いしのまき浜日和」を発行。「未来へのヒントは、石巻の浜にある」をテーマに、石巻地方のリアスの浜で出会える食、文化、人、もの、見どころ、楽しさを 100 ページに記載。

#### 1 5) 2.0 エクスカーション

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under14.html](http://ishinomaki2.com/projects_under14.html)

被災地から始まる新しいまちづくりの形をより深く知るためのプログラム。プログラムはレクチャーとまち歩きからなるが、テーマ・場所など要望に応じて構成可能。料金は基本料金 10,000 円+2,000 円/1 名(資料代込)。

#### 16) 地域自治システムサポート事業

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under15.html](http://ishinomaki2.com/projects_under15.html)

石巻市から委託を受け、思いを持った地域住民が地域の課題を解決し、ニーズを吸い上げ、自分たちのまちを「自分たちで住みやすいまち」にすることをお手伝いしている。地域のことは、その土地に住む人だからこそ知っているものが沢山ある。「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」と思ってもらえるような、元気で魅力あるまちづくりをISHINOMAKI2.0も目指している。

#### 17) 移動式遊具開発プロジェクト

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under16.html](http://ishinomaki2.com/projects_under16.html)

街の中の公園の多くが「仮設住宅」になり、石巻は遊び場を失った。そこで、子どもたちのアイデアをもとに、石巻工房と「組み立てられる移動式遊具」を開発した。遊具が流されてしまった公園や、まちの中にたくさんできてしまった空き地に車で遊具を運び、まちなかに子どもたちの遊び場を生み出した。開発資金はクラウドファンディングを通して全国から支援を得た。

#### 18) 子どものまち・いしのまき

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under17.html](http://ishinomaki2.com/projects_under17.html)

子どもたちが店やまちをつくり、働いてお金を稼ぎ、まちを楽しむ、まち体験イベント。子どものまち・いしのまきは、2012年、有志の団体と共に活動を開始。まちなかを使って開催することと、半年かけて「子ども店長」と一緒に店とまちを考えつくりあげていくことが特徴。まちや店をつくり、運営し、働いていく中で子どもたちの様々な経験と成長と共に、子どもとまちとのつながりづくりを大切にしている。

#### 19) シビックプライド

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under18.html](http://ishinomaki2.com/projects_under18.html)

シビックプライド石巻は「まち」への愛が少なくなった現代に、石巻市民が地域に対する誇りや愛着を再発見し、住民同士が連携しながら石巻での暮らしや仕事を自ら生き活きたものへと変えていけるようにする事を目的としたプロジェクト。その為にISHINOMAKI2.0は、この活動を通して少しずつ石巻への愛を持ってもらえるように、様々な働きを行っている。

#### 20) 石巻 VOICE

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under19.html](http://ishinomaki2.com/projects_under19.html)

ISHINOMAKI2.0という団体が生まれ、まず手がけたのがフリーペーパー「石巻 VOICE」。Vol. 0～3号の計4回発行。「FUTURE」「CULTURE」「IDEA」というテーマに沿った人



選によるインタビューをメインに東京工業大学真野研究室の学生達を作る記事も掲載。2011年3月直後から集め始めた石巻の人々の声には、メジャーなメディアでは汲み取れないリアルな現実と未来への展望、知恵、希望があふれ、日本中に配布され多くの反響を呼んだ。

#### 2 1) コミュニティカフェ・かめ七

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under20.html](http://ishinomaki2.com/projects_under20.html)

「コミュニティカフェ・かめ七」（通称「コミかめ」）は、地域住民と全国から訪れる人々が、雑誌を媒介として交流する、石巻のコミュニティ拠点。創業 150 年の老舗「かめ七呉服店」の店主の米倉さんが青春時代に愛読・収集した 1970～80 年代の雑誌が閲覧可能。地域住民の憩いの場として、石巻の情報収集・情報発信の拠点として、各種イベントやワークショップも開催している。

#### 2 2) Reborn-Art Festival

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under21.html](http://ishinomaki2.com/projects_under21.html)

東日本大震災を乗り越え、ここまで歩んできた人々の“生きる力”や“生きる術”に共感した様々なジャンルのアーティストが、東北の自然や豊かな食材、積み重ねられてきた歴史と文化を舞台に、そこに暮らす人々とともに繰り広げる、いままで見たこともないお祭り。第 1 回は 2017 年の夏、石巻・牡鹿半島を中心に開催し、ISHINONOMAKI2.0 は代表松村が実行委員会事務局長を務めるなど、パートナーとしてサポートしている。

#### 2 3) 石巻経済新聞

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under22.html](http://ishinomaki2.com/projects_under22.html)

石巻経済新聞は、全国・海外約 90 都市以上に広がるインターネットニュースサイト「みんなの経済新聞ネットワーク」の広域石巻圏版。石巻の「まちネタ」を地元目線で取材し、インターネットを通じて日本中に発信している。

#### 2 4) いしのまきトラベルレストラン

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under23.html](http://ishinomaki2.com/projects_under23.html)

都市部と地域を繋ぐきっかけをつくる「にっぽんトラベルレストラン」から誕生したのが「いしのまきトラベルレストラン」。石巻の生産者や地元の人々とつながるきっかけをつくり、石巻だからこそ味わえる食の豊かさやそれにまつわる文化を体験できる旅を提供している。その日その時の石巻でしか味わえない、一日限定のレストラン。

#### 2 5) 復興バー銀座

[http://ishinomaki2.com/projects\\_under24.html](http://ishinomaki2.com/projects_under24.html)

東北支援会と協働し、復興バーが毎年期間限定で銀座に出現。東北の支援に関わっている方や被災地と交流を持っている方、東北の事業者などが日替わりでマスターをつとめ銀座の夜を演出している。

### <終了した事業>

#### 1) 復興民泊

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under01.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under01.html)

復興民泊は、市内の宿泊施設が充分復旧していなかった 2011 年 9 月の秋に、石巻中央の商店街に面した場所にオープンした。ドミトリーなので街なかにリーズナブルに滞在でき、そこを拠点にまちの様々なところに出かけ、人々と触れ合うことができる。復興民泊は役目を終える 1 年半の間に、約 3300 人の旅人が滞在し、収益の半分を物件のオーナーさんにお渡しし、小さな経済を生み出した。※復興民泊事業は 2013 年に終了した。

#### 2) CELEBRITY Project

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under02.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under02.html)

復興の過程で見過ごされがちな女性たちの生活に焦点をあて、石巻の女性にもっと癒しを、石巻の女性をもっと元気にしようというプロジェクト。これまで、東京のフレンチシェフを招聘した「一日限定レストラン」「わがままミキータのパン工房」「プリザーブドフラワーアレンジメント」などを開催し、特別な一日を演出してきた。

#### 3) Re- Futbolista project

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under03.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under03.html)

「Re:Futebolista=リ・フットボリスタ」は本格的なフットサルの大会。2ヶ月に1回のペースで県内・県外のプレーヤーを集めて開催。初心者から上級者まで、ときにはプロの選手も交えて本気でボールを追いかけている。震災後、なかなか使われることのなかった中瀬公園でもスポーツの歓声を響き渡らせた。フットサルを通じて子どもも大人もひとつになることを目指している。

#### 4) オープン!!イシノマキ

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under04.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under04.html)

オープン!!イシノマキはお店や拠点をより深く理解しながら、まちあるきをする仕組み。各拠点の運営者や各商店の店主が自分の店を伝える写真を 20 枚選び、それにまつわるコメントを書いたポスターを作成した。気になるあのお店、久しく足を運んでなかったあの場所、そして石巻の今を、そのポスターを見て確かめることができる。地図は中央商店街各所でも配布した。

5) まちキャンプ

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under05.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under05.html)

まちなかの空地を活用し、宿泊場所の確保が難しい街にテントサイトをつくった。川の風を感じ、まちの音を聞き、潮の香りと地魚を食す、石巻を五感で知る新しいまち利用法。「まち」＋「キャンプ」という新しいまちの魅力の創出を目指した。STAND UP WEEK など期間限定で不定期に開催され、石巻を訪れる人々に人気を博している。

6) 石巻・台湾アート友好プロジェクト

[http://ishinomaki2.com/projects\\_past\\_under06.html](http://ishinomaki2.com/projects_past_under06.html)

「パラファン」（台湾の言葉で善意の交流、心地よい出会いの挨拶の意）をテーマに、2012年8月のイベント、2013年5月のメインイベント合わせて60名近い台湾からの訪問団を迎え、日台アーティストのコラボレーションによる交流事業を実施。メイン企画では30組以上のアーティストによるパネル画で構成された家形のオブジェを中瀬公園に制作し、ワークショップやシンポジウムも開催。ISHINOMAKI2.0は事務局を務めた。

## (2) 一般社団法人 SAVE TAKATA

(参考) CANPAN FIELDS

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1314148758>

より作成

### <基礎情報>

団体名	一般社団法人 SAVE TAKATA
代表者名	佐々木 信秋
住所	岩手県陸前高田市高田町字大隅 9 3-1 高田大隅つどいの丘商店街 9 号
設立年月日	2011 年 3 月 11 日
法人格取得年月日	2011 年 6 月 13 日
中心となる活動地域 (県)	岩手県内
最新決算総額	1,000 万円～5,000 万円未満
役員数・職員数合計	SAVE TAKATA は陸前高田に拠点を設け、世代を超えたさまざまな価値観や経歴を持ったメンバーで社会事業を推進。(2017 年 1 月現在、常勤 10 名、パート 1 名、顧問 1 名、ボランティア約 10 名)
団体の概要	<p>『陸前高田にある地域課題を解決すること、それは日本の未来を創ること』</p> <p>2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により、壊滅的な津波被害を受けた岩手県陸前高田市。当時は人口 24,000 人ほどの小さな市だったが、この災害により 1,800 人近くの方が犠牲になるという、大変な惨事にみまわれた。また、「高齢化」、「若者流出」、「一次産業の衰退」など、元々あった地域としての課題はよりいっそう顕著になった。この災害により、「さらに 20 年分の過疎化が進んでしまった」とも言われている。そしてこの課題は、陸前高田だけでなく全国どこにでもある課題でもある。現在の陸前高田の姿は、まさに 20 年後の日本の未来をあらわしていると考えている。</p> <p>『復興のその先へ・・・』</p> <p>現在陸前高田は、日本そして世界中からのあたたかい支援により、新しいまちづくりに向けて一步一步進んでいる。陸前高田は大きな悲しみが落ちた地ではあるが、「震災前より良い街に！！」という前向きなエネルギーがあふれる場所でもある。開かれた土地として、地域内外から多くの人たちがつどい新たな地域づくりを始めている、そんな「挑戦の地」である、</p>

	と考えている。この挑戦の地「陸前高田」で、復興そして発展を目指すと共に、その先の日本の未来を創ることに挑戦し続けている。
ウェブページ	<a href="http://savetakata.org/">http://savetakata.org/</a>

### <活動概要>

活動分野	地域・まちづくり、ITの推進、就労支援・労働問題、農山漁村・中山間
設立以来の主な活動実績	東日本大震災発生後の団体設立時には、災害緊急支援として陸前高田市の情報発信サイトを立ち上げ、現状をリアルタイムで発信し、1週間で35,000名のユニークユーザーを記録。その他、物資支援として総量約20tあまりの物資支援や、陸前高田市第一中学校避難所及び、住田町災害ボランティアセンターのボランティア宿泊施設の運営サポートを実施。その後は、陸前高田市災害対策本部ホームページ制作や首都圏での陸前高田市支援フォーラムや陸前高田市物産展の開催、陸前高田市でのイベント開催のマッチング、コーディネートを約150件実施。
団体の目的	当法人は、2011年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を被った岩手県陸前高田市及びその周辺の地域復興及び市民協力の促進を目的とする。
団体の活動・業務（事業活動の概要）	農業事業：米崎りんごの生産基盤の強化と人材育成及び自立支援。 ICT事業：ICTを活用した情報発信と就労支援。 若者事業：首都圏の大学生を主体とした陸前高田市での居場所作りと情報発信。（図41参照）
現在特に力を入れていること	農業事業：米崎りんごの生産基盤の強化と人材育成及び自立支援。 ICT事業：ICTを活用した情報発信と就労支援。 若者事業：首都圏の大学生を主体とした陸前高田市での居場所作りと情報発信。
今後の活動の方向性・ビジョン	—
定期刊行物	—
備考	—

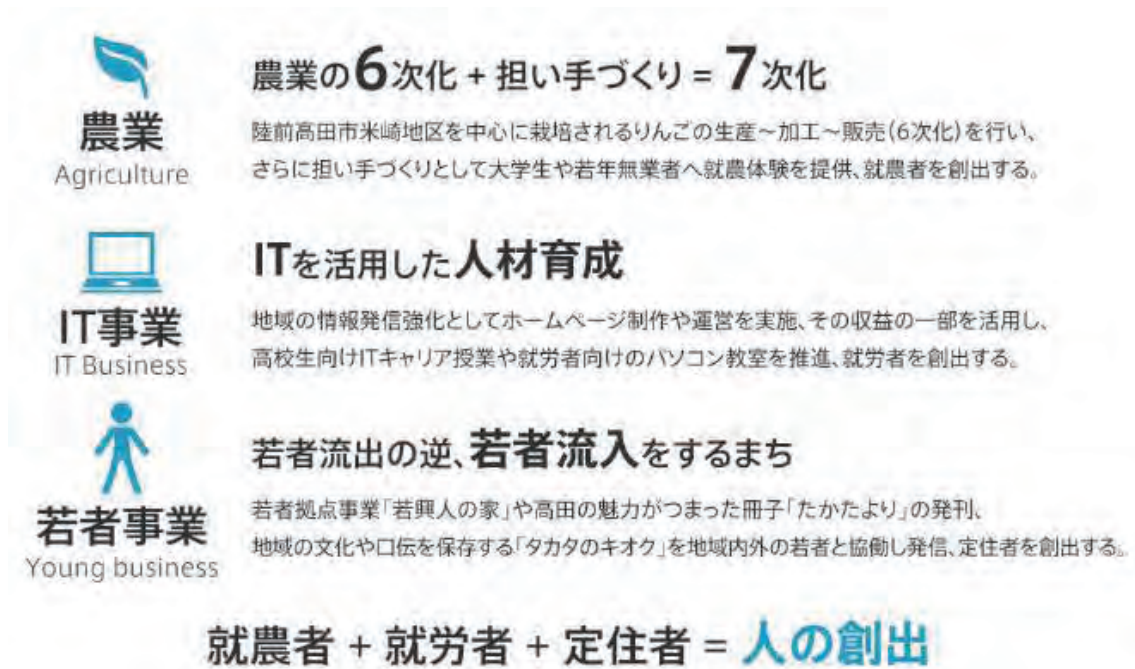


図 41：事業活動の概要

出典) 一般社団法人 SAVE TAKATA：組織情報<sup>32</sup>

### <活動実績>

SAVE TAKATA は、挑戦の地「陸前高田」で、日本の未来をつくる地域づくりを目指す、という理念の元「農業」「IT 事業」「若者事業」を軸に地域の課題を継続的に解決する社会事業会社として日々活動をしている。特に「高齢化」「若者流出」「一次産業の衰退」といった地域課題を解決する事業に注力をしている。

#### ■ 「農業」

##### 農業の6次化 + 担い手づくり = 7次化

陸前高田市米崎地区を中心に栽培されるりんごの生産～加工～販売(6次化)を行い、さらに担い手づくりとして大学生や若年無業者へ就農体験を提供、就農者を創出することを目指している。

陸前高田市には約 80 件のりんご農家が 1,500 トンの米崎りんごを生産しているが、年々高齢化が深刻になっており、りんご農家が減っているのが地域課題としてある。その課題解決として農業の 7 次化という新しい社会事業を創出し、地域の発展に寄与したいと考えている。

現在の取組状況として米崎りんごのジュースとジャムを開発、販売をしており、加工を

<sup>32</sup> <http://savetakata.org/about/>

地元事業者や福祉施設に依頼をし、農家の収入向上や地域経済活性化に寄与をしている。また、大学生の就農体験やインターン、若年無業者の自立支援の受入を適時行っている。

～米崎りんごア・ラ・カルト～

岩手県陸前高田市米崎町で作られている「米崎りんご」の専門店。

海をのぞむ生産地はとても珍しい。海風を浴びて育つ米崎りんごのおいしさを広く知ってもらうため、「米崎りんごア・ラ・カルト」が誕生した。

2016年2月に、米崎りんご事業の発案者でもある当法人スタッフが、独立起業する事となり、個人事業として2月1日より「米崎りんごア・ラ・カルト」ブランドを引き継ぎ、商品開発、販売を行っている。

## ■ 「IT 事業」

### IT を活用した人材育成

地域の情報発信強化としてホームページ制作や運営を実施、その収益の一部を活用し、高校生向け IT キャリア授業や就労者向けのパソコン教室を実施し、就労者を創出することを目指している。

陸前高田市を含む三陸地域ではパソコンが使えない市民が多く、IT リテラシーの低さが課題になっている。また、地域には Web 制作事業者がほとんどなく、誰かがホームページをつくりたくても地域外に依頼をしたり、費用が高くなってしまいうケースが多くある。こうした課題を解決する為に「IT のおすそわけ」としてホームページの制作を地域で行い、また、収益の一部を活用し、IT による地域貢献活動を進めている。

IT による地域貢献の一例として大船渡東高校様と協働し、授業の一環として高校生に Web 開発を教えたり、課外授業としてより専門的に HTML や PHP などのプログラミング言語を教えている。また、陸前高田復幸マップという地域の情報や魅力が詰まったポータルサイトを運営、情報発信を進めている。

## ■ 「若者事業」

### 若者流出の逆、若者流入をするまち

若者拠点事業「若興人の家」や、地域の文化と口伝を保存する「タカタのキオク」を地域内外の若者と協働し発信、若者流入を興し、定住者を創出することを目指している。

陸前高田市の現在の高齢化率（65歳以上人口の割合）は33%と全国平均より10%高く、高齢化と若者流出が地域全体の最も切実な課題になっている。

その課題を解決する為に、若者がつくる若者拠点事業として、陸前高田市鳴石地区にある古民家を、大学生を中心に企画、改修を進めている。

また、市内のまちあるきを適時実施し、地域の文化と口伝を保存し発信する「タカタのキオク」の制作準備を進め、多くの若者が地域に流入するきっかけづくりを進めている。

#### <Value>

何年先も陸前高田と交流する若者を増やす

震災前から人口減少が続き市民の共通認識として「若者が減っている」状況であった。その状況のなかで多くの市民は「地域に魅力がないから若者が外に出ていくのは仕方がない」と考えており、「地域に自信がない→住んでいる自分たちにも自信が持てない」という負の感情連鎖が続いていた。震災は人の命だけでなく、その地域の歴史・文化・産業さえも流してしまい、市民を大きく傷つけ、負の感情をさらに加速させてしまった。建物が復興したとしても負の感情を覆す「心の復興」は絶対に必要であり、それができるのは唯一「若者（=大学生）の力」であると考えている。そのため若興人の家では「何年先も陸前高田と交流する若者を増やす」ことを一番重要な価値観として設定し、活動をする。

#### <Mission>

東日本大震災によって壊滅的な津波被害を受けた岩手県陸前高田市の復興、地域づくりに大学生が参画し、市民と大学生が交流を深めることにより「高田が好き（=第2の故郷）」と想う大学生（=若者）が増え、市民の心の復興を達成する。

市民の心の復興、その先の誇りを醸成することを目的とし「何年先も陸前高田と交流する若者を増やす」ことを進めていく。そのためには大学生（=若者）にまず陸前高田を知ってもらうこと、そして市民との交流や地域づくりを通して「高田が好き（=第2の故郷）」と想ってもらうことを活動を通して進めていく。その結果、大学生との交流を通して高田の良きところに市民が気づき、誇りが醸成されていく。

#### <Vision>

市民が高田に誇りを持ち、若者を呼び込むまちになっている。

若興人の家の目指す未来像は、市民が高田に誇りを持ち、若者に対して「良いまちだろう」「自慢のまちなんだ」と胸を張って言え、高田の良きところを伝え、自らが若者を呼び込むことである。そのことによって若興人の家の活動の有る無しに関わらず、持続的に若者との交流が生まれ、市民の心の復興だけでなく、その先の誇りが醸成され続けることである。



### <Strategy>

- (ア) 大学生の主体性を重視し、卒業後も OB・OG による関係性を構築する。
- (イ) 市民との交流を常に念頭におき、地域の歴史・文化・産業をよく知り、よく学ぶ。
- (ウ) 首都圏の大学生や大学を中心に情報を発信し、効果的な参加や連携を進めていく。

### <最近の動き>

#### ■ 「次世代育成事業」の取組（2017年5月）

株式会社大塚商会が社会貢献への取組として実施している、「大塚商会ハートフル基金復興応援プロジェクト」より支援。

対象となる事業は、当法人で実施している「次世代育成事業」で、【陸前高田市内の中学生を対象としたマイプロジェクトプログラム】を実施。

本プロジェクトの土台となる当法人の次世代育成事業は、陸前高田市における長期的な地域課題の仕組みづくりに寄与できるものであると考えている。

#### ■ 「特定非営利活動法人 LAMP」設立（2017年4月）

2017年4月28日をもって特定非営利活動法人 LAMP を設立。

当法人理事の松本玄太氏が代表理事に就任し、SAVE TAKATA にて実施をしていた農業（米崎りんごの栽培及び農業体験の受入）を事業譲渡。

LAMP は「米崎りんごを後世につなぎ、陸前高田市の宝を守る」ことを目指し、「おいしい米崎りんごを作り」「おいしい米崎りんごを多くの人に食べてもらい」「おいしい米崎りんごに関わる仕事と人を増やす」ために、「生産基盤の強化」「販路開拓」「担い手の創出」に取り組んでいく。

既に米崎町に約 8 反歩（約 370 本）の農地を借りてのりんごの栽培、通信販売や首都圏でのイベントでの販売、担い手の創出の一貫としての農業体験、自立を目指す若者の就労体験の受け入れを行っている。

今後も SAVE TAKATA が掲げる「地域課題を解決するしくみをつくる」、その大きなしくみのひとつとして LAMP を支援、連携し、持続可能な農業、農業と ICT との連携等、地域にとってより良い成果につながるように事業を推進。

尚、農業に関する雇用や事務局体制等は LAMP へ順次移行していく予定。また、松本氏は SAVE TAKATA の理事を継続（移行状況を見ながら常勤から非常勤へ切り替え予定）、佐々木氏は LAMP の非常勤理事として引き続き、事業の連携をはかる。現在は、松本氏を中心に 5 名体制で LAMP の事業推進にあたっている。

### (3) 特定非営利活動法人野馬土

#### <基礎情報>

団体名	特定非営利活動法人野馬土
代表者名	代表理事 杉和昌 三浦広志
住所	福島県相馬市石上字南白髭 320 番地
設立年月日	2012 年 10 月 01 日
法人格取得年月日	平成 24 年 10 月 9 日
活動地域 (県)	福島県
最新決算総額	43,723,096 円
役員数・職員数合計	会員 22 名
団体の概要	放射能汚染による食品の安全性に対する不安や県民の健康に対する不安を最小限にとどめるための事業を行い、相馬地方をはじめとする福島県の地域及び農業復興に寄与する
ウェブページ	<a href="https://nomado.info/">https://nomado.info/</a>

#### <活動概要>

活動分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの推進を図る活動</li> <li>・観光の振興を図る活動</li> <li>・農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動</li> <li>・環境の保全を図る活動</li> <li>・災害救援活動</li> <li>・地域安全活動</li> <li>・国際協力の活動</li> <li>・経済活動の活性化を図る活動</li> <li>・職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動</li> <li>・消費者の保護を図る活動</li> </ul>
設立以来の主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェ『野馬土』運営</li> <li>・直売所等での農産物販売事業：相馬市をはじめとする地域の農作物、加工品等を販売している。現在は、運営が農事組合に移管されている。</li> <li>・直売所の取扱商品の全国販売：直売所で取り扱っている地域産品や野馬土の開発商品をオンラインで全国に販売している。</li> <li>・20 km圏内ツアー：ガイドが福島第一原発 20km 圏内を案内しながら、震災時から現在までの被災地の状況を説明。南相馬市小高区、浪江町沿岸部を主に回る。毎年 2,000～3,000 人くらいの参加。</li> <li>・放射線量の計測：食品中の放射性物質の検査を国のガイドラインに基</li> </ul>

	<p>づいて実施。他にも、農地などの土壌放射能分析検査も行っている。相馬市や南相馬市、新地町の農地などを訪問して計測。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電事業：南相馬市小高区金谷北地区へ4基、金谷若林地区へ1基、井田川西迫へ1基の設置が完了し、合計6基が稼働を開始した。年間355MWhを発電する予定で、これは約98世帯の年間電力消費量にあたる。実際に取り組んでいる太陽光発電は、約1億円の工事費により建設し、建設費の3分の1を経済産業省の「半農半エネモデル等推進事業」により補助を受けている。</li> </ul>
団体の目的	福島県民に対して、放射能汚染による食品の安全性に対する不安や県民の健康に対する不安を最小限にとどめるための事業を行い、相馬地方をはじめとする福島県の地域及び農業復興に寄与することを目的とする。
団体の活動・業務（事業活動の概要）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェ『野馬土』運営事業</li> <li>・地元農産物等の放射能検査と結果公表</li> <li>・交流イベントの開催事業</li> <li>・直売所等での農産物販売事業</li> <li>・農業復興のための再生可能エネルギー事業の研究</li> <li>・その他第3条の目的を達成するための事業</li> </ul>
現在特に力を入れていること	—
今後の活動の方向性・ビジョン	・ドローンの練習場と太陽光発電所と組み合わせた農地の開発をしている。平成30年に開業予定。
定期刊行物	・「野馬土の新聞」を毎月刊行
備考	—

#### <活動実績>

助成金・補助金・物品等、他の組織から受けた支援の実績	—
他のNPO・市民活動団体との協働、他の学協会との共同研究・協働の実績	—
企業・団体との協働・共同研究の実績	—
行政との協働の実績	—

<収支報告>

平成27年度の活動計算書を表56に示す。

表56：特定非営利活動法人野馬土における平成27年度活動計算書

平成27年度活動計算書  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

特定非営利活動法人 野馬土  
(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業			収益事業		計	合計
	放射能検査と結果公表	交流イベントの開催事業	計	コミュニティカフェ	再生エネルギー事業		
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費							
正会員受取会費	4,000	4,000	8,000	0	0	0	8,000
賛助会員受取会費	4,500	4,500	9,000	0	0	0	9,000
2. 受取寄付金							
受取寄付金	570,348	570,348	1,140,696	0	0	0	1,140,696
3. 受取助成金等							
受取補助金	18,933,468	18,933,468	37,866,936	0	0	0	37,866,936
4. 事業収益							
事業収益	13,518	13,518	27,036	2,676,363	1,199,717	3,876,080	3,903,116
受託事業収益	758,453	0	758,453	0	0	0	758,453
その他事業収益	0	35,500	35,500	0	0	0	35,500
5. その他収益							
受取利息	419	419	838	279	278	557	1,395
経常収益計	20,284,706	19,561,753	39,846,459	2,676,642	1,199,995	3,876,637	43,723,096
<b>II 経常費用</b>							
1. 事業費							
(1) その他経費							
売上原価	0	232,961	232,961	2,391,868	0	2,391,868	2,624,829
諸謝金	0	181,300	181,300	0	0	0	181,300
印刷製本費	13,193	13,193	26,386	8,796	8,795	17,591	43,977
車両費	20,476	20,476	40,952	13,652	13,652	27,304	68,256
通信運搬費	10,280	10,280	20,560	6,851	6,851	13,702	34,262
消耗品費	35,334	81,988	117,322	299,729	23,554	323,283	440,605
支払手数料	41,443	41,443	82,886	27,628	27,628	55,256	138,142
雑費	40,282	170,835	211,117	199,540	26,856	226,396	437,513
その他経費計	161,008	752,476	913,484	2,948,064	107,338	3,055,400	3,968,884
事業費計	161,008	752,476	913,484	2,948,064	107,336	3,055,400	3,968,884
2. 管理費							
(1) 人件費							
給料手当	1,848,383	1,848,383	3,696,766	1,232,256	1,232,256	2,464,512	6,161,278
法定福利費	85,383	85,383	170,766	56,921	56,920	113,841	284,607
人件費計	1,933,766	1,933,766	3,867,532	1,289,177	1,289,176	2,578,353	6,445,885
(2) その他経費							
会議費	2,118	2,118	4,236	1,412	1,412	2,824	7,060
旅費交通費	150,259	150,259	300,518	100,172	100,172	200,344	500,862
水道光熱費	63,653	63,653	127,306	42,433	42,433	84,866	212,172
地代家賃	44,100	44,100	88,200	29,400	29,400	58,800	147,000
広告宣伝費	364,824	364,824	729,648	243,215	243,215	486,430	1,216,078
減価償却費	0	0	0	0	3,402,891	3,402,891	3,402,891
保険料	72,420	72,420	144,840	48,280	48,280	96,560	241,400
租税公課	158,280	158,280	316,560	105,520	105,520	211,040	527,600
支払手数料	247,927	247,927	495,854	165,285	165,284	330,569	826,423
研修費	4,092	4,092	8,184	2,728	2,728	5,456	13,640
支払利息	584,364	584,364	1,168,728	389,574	389,573	779,147	1,947,875
その他経費計	1,692,037	1,692,037	3,384,074	1,128,019	4,530,908	5,658,927	9,043,001
管理費計	3,625,803	3,625,803	7,251,606	2,417,196	5,820,084	8,237,280	15,488,886
経常費用計	3,786,811	4,378,279	8,165,090	5,365,259	5,927,419	11,292,680	19,457,770
当期経常増減額	16,497,895	15,183,474	31,681,369	-2,688,618	-4,727,425	-7,416,043	24,265,326
前期繰越正味財産額	5,412,721	2,953,120	8,365,841	-4,991,839	-3,223,750	-8,215,589	150,252
次期繰越正味財産額	21,910,616	18,136,594	40,047,210	-7,680,456	-7,951,175	-15,631,632	24,415,578

出典) 特定非営利活動法人野馬土：定款・決算<sup>33</sup>

<組織運営>

意思決定機構：総会、理事会

<sup>33</sup> [https://nomado.info/wp-content/themes/biz-vektor/pdf/nomado27nendo\\_kessan.pdf](https://nomado.info/wp-content/themes/biz-vektor/pdf/nomado27nendo_kessan.pdf)

(4) 特定非営利活動法人素材広場

<基礎情報>

団体名	特定非営利活動法人素材広場
代表者名	横田純子
住所	福島県会津若松市八角町 13 番 45 号
設立年月日	2005 年 6 月 (活動開始)
法人格取得年月日	2009 年 8 月 20 日
活動地域 (県)	福島県
最新決算総額	非公表
役員数・職員数合計	7 人
団体の概要	<p>福島県の宿泊施設 (旅館・ホテル) に対し、福島県内の安心・安全な素材および福島ならではの素材による地産地消の推進に関する事業を行い、宿泊施設が地産地消を活かした集客魅力向上に寄与し、旅行業法に基づく旅行業及び旅行業者代理業とともに、旅行の促進と観光事業の発展に貢献することを目的とする。(図 42 参照)</p> <p>たくさんの生産者・加工品などの中でも「作り手のこだわりが見えるもの」を厳選し、お宿に紹介することで地産地消による宿のプラン作りをお手伝いしています。</p> <p>地産(100点素材)+地消(旅館・ホテル)=イチオシ宿</p> <p>作り手と宿と素材広場で福島への観光客をおもてなしします</p> <p>作り手の役割 いいものを作る 農産物・加工品・魚介類 伝統工芸品・新商品</p> <p>お宿の役割 素材の情報を活かす プラン・メニュー作り 情報をお客様へ伝える</p> <p>宿泊客</p> <p>宿と生産者をつなぐ 作り手の情報を宿へ 地産地消の企画 受発注システム 素材広場の役割</p>

図 42 : 団体概要

	出典) 特定非営利活動法人素材広場：理念・方針 <sup>34</sup>
ウェブページ	<a href="http://sozaihiroba.net/">http://sozaihiroba.net/</a>

### <活動概要>

活動分野	まちづくり／観光／農山漁村・中山間地域／情報化社会／経済活動の活性化／連絡・助言・援助
設立以来の主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ITを活用した地域活性化支援事業』農産物直売所における流通高度化等モデル（経済産業省）（平成 21 年度）</li> <li>・第三回地産地消セミナー（福島県旅館ホテル生活衛生同業組合とタイアップ）（平成 21 年度）</li> <li>・会津・若嫁プロジェクト（会津若松市農政課）（平成 21 年度）</li> <li>・ねずみ小僧プロジェクト（共催：美里町グリーン・ツーリズム推進協議会、株式会社明天）（平成 21～29 年度）</li> <li>・YAHOO! JAPAN 復興デパート（自主事業）（平成 23～27 年度）</li> <li>・あいづ食の陣（会津若松市農政課）（平成 26～28 年度）</li> <li>・地域社会雇用創造事業（内閣府）（平成 22 年度）</li> <li>・農商工連携創出事業（福島県）（平成 22 年度）</li> <li>・ふくしまキャンペーン（東北観光推進機構）（平成 22 年度）</li> <li>・会津若松市農村活性化プロジェクト審査会（会津若松市農政課）（平成 22 年度）</li> <li>・宿・食・観連携 ～ハイ・サービスセミナーin 会津（東北経済産業局）など（平成 22 年度）</li> <li>・復興モニターツアー（福島県サポート事業&amp;極上の会津プロジェクト協議会）（平成 23 年度）</li> <li>・インターンシップ事業（内閣府）（平成 23 年度）</li> <li>・会津復興キャンペーン（極上の会津プロジェクト協議会）（平成 24 年度）</li> <li>・中小企業の協働による国内外販路開拓支援事業（全国中小企業団体中央会）（平成 24 年度）</li> <li>・会津・麗の食スタイル（緊急雇用事業・会津農林事務所）（平成 24 年度）</li> <li>・復興六起（起業ナビ）（平成 24 年度）</li> <li>・JAあいづ共同視察ツアー（平成 24～25 年度）</li> <li>・米 12 人衆（自主事業）（平成 24～25 年度）</li> <li>・会津・麗の食スタイル（緊急雇用事業・会津農林事務所）（平成 25～26 年度）</li> </ul>

<sup>34</sup> <http://sozaihiroba.net/philosophy>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七転び八起きキャンペーン（極上の会津プロジェクト協議会）（平成 25 年度）</li> <li>・八重の郷協議会事務局など（平成 25 年度）</li> <li>・地域資源活用ネットワーク構築事業（経済産業省）（平成 26 年度）</li> <li>・あいづ食の陣利用促進事業－出陣券（あいづ食の陣実行委員会）（平成 27 年度）</li> <li>・奥会津六次化商品開発・販路拡大事業（只見川電源流域振興協議会）（平成 27 年度）</li> <li>・奥会津すてないプロジェクト（自主事業）など（平成 27 年度）</li> <li>・奥会津六次化商品開発・販路拡大事業（只見川電源流域振興協議会）（平成 28 年度）</li> <li>・料理人と生産者の魅力発信・福島食プロジェクト（福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業）（平成 28 年度）</li> <li>・会津桜アスパラプロジェクト（JA 会津よつば）（平成 28 年度）</li> </ul>
<p>団体の目的</p>	<p>福島県の宿泊施設（旅館・ホテル）に対して、福島県内の安心・安全な素材および福島ならではの素材による地産地消の推進に関する事業を行い、宿泊施設が地産地消を活かした集客魅力向上に寄与することを目的とする。</p>
<p>団体の活動・業務（事業活動の概要）</p>	<p>◆生産者とお宿をつなぐネットワーク事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員素材を会員宿へ情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員生産者の新商品情報や特売情報などを収集し、会員の宿へいち早く届ける。月初めには最新見積もり、生産者から届いたお得な情報はお薦め FAX にて情報提供する。</li> </ul> </li> <li>2. 生産者の現場取材 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員生産者の現場を突撃取材する。素材広場 HP にて作り手の思いや作業の様子などの裏舞台を紹介する。取材内容は宿の企画で紹介する時にも役立つ。</li> </ul> </li> <li>3. トレーサビリティ&amp;一括受発注システム <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材のトレーサビリティがネットで調べられる、生産者のはっきりした素材がネットで受発注可能。会員同士で手数料もかからず、さらに請求書支払先を一本化できる。FAX での注文も受け付ける。</li> </ul> </li> <li>4. 宿プランの紹介 宿にお得！ <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材広場のHPにて素材を使っている宿のプランを紹介していく。会員のお宿の紹介ページもあるが、取材ブログでは宿の舞台裏を知ってもらうことで普段の影の努力が伝わる。</li> </ul> </li> <li>5. 素材情報誌「素材広場」の発行</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員生産者の旬の素材や宿の新プラン、地産地消の取組事例なども紹介する商品紹介の情報誌「素材広場カタログ」を発行。会員宿で無料配布している。</li> <li>6. 交流会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは福島の生産者を知って欲しい。そこで直接会う機会として「交流会」を実施。生産者が宿の方々に向けてプレゼンしている。</li> </ul> </li> <li>7. 現場見学会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者のこだわりを知るには現場を見ること。気になる生産者がいれば現場見学会を実施。宿の研修としても個別対応している。</li> </ul> </li> <li>◆生産者・お宿・地域のコンサルティング事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 商品開発</li> <li>2. お宿の地産地消イベント&amp;プラン企画</li> <li>3. お宿の売店リニューアル</li> </ul> </li> <li>◆特定期間や季節ごとのプロジェクト型事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ねずみ小僧企画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品なのに人出不足や収穫量オーバーなどの理由で流通に乗らないものを会員宿に超特価で譲る年に何度かの特別企画。</li> </ul> </li> <li>2. 極上の会津プロジェクト主催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間中に指定の旅行会社を通して福島の提携宿に泊まった方に福島ならではの隠れ味やプレミアム商品があたる。</li> </ul> </li> <li>3. 「会津・麗の食スタイル」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後の会津に来て下さる方々を会津らしくおもてなししようと取り組み始めたプロジェクト。会津漆器と会津の食材、作り手のわかるもので今の会津流のおもてなしをする企画。参加宿がそれぞれ企画をし、泊まることで体験できる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
現在特に力を入れていること	—
今後の活動の方向性・ビジョン	・平成30年4月1日より着物レンタル事業を開始予定。
定期刊行物	—
備考	—

#### <活動実績>

助成金・補助金・物品等、他の組織から受け	—
----------------------	---



た支援の実績	
他のNPO・市民活動団体との協働、他の学協会との共同研究・協働の実績	—
企業・団体との協働・共同研究の実績	—
行政との協働（委託事業など）の実績	—

<収支報告>

非公表

<組織運営>

意思決定機構：総会、理事会

## (5) 特定非営利活動法人さんりく WELLNESS

(参考) CANPAN FIELDS

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1302837503>

より作成

### <基礎情報>

団体名	特定非営利活動法人さんりく WELLNESS
代表者名	熊谷 侑希
住所	岩手県大船渡市末崎町字上山 127-3
設立年月日	2014年5月2日
法人格取得年月日	2014年8月
中心となる活動地域(県)	岩手県内
最新決算総額	100万円未満
役員数・職員数合計	10名
団体の概要	<p>岩手県大船渡市や大槌町の仮設住宅や災害公営住宅に健康運動指導士や実務経験者が赴き、介護予防や健康増進のための運動教室を開催。教室を通じて基礎体力づくりや運動習慣の定着だけでなく、参加者同士の関係構築も目指している。また、行政が主催している介護予防教室や健康づくり事業を受託したり、講師派遣等も行っている。</p> <p>また、大槌町内の仮設住宅及び災害公営住宅にお住いで、一般の交通機関や自家用自動車での外出が困難な高齢者に対し、閉じこもりを予防し、高齢者の生活圏拡大を目的に、自宅から町内への外出を支援している。買い物においては、頼まれたものを買ってくる代行ではなく、移動の足のみ代行し、本人が「社会と繋がる」機会を創出している。</p>

### <活動概要>

活動分野	子ども、障がい者、高齢者、福祉、保健・医療、教育・学習支援、地域・まちづくり、スポーツの振興、その他
設立以来の主な活動実績	活動の始まりは東日本大震災直後の避難所からで、代表である熊谷氏が、大船渡市の避難所を訪れた際、被災された高齢者の方々が昼間でも横になって過ごしている様子を見て「このままでは寝たきりになってしまうのでは・・・」と思ったのがきっかけであった。簡単なストレッチや筋

	<p>トレをしながら身体を動かす事でストレス解消や介護予防に繋がりたいという思いで、看護師だった祖母と2人で避難所を回り、体操教室を開催した。その後、仮設住宅への入居が進んだため活動を行っていなかったが、仮設住宅内での高齢者の体力低下や運動不足が深刻化してきた事から2014年の5月に団体を設立した。</p>
団体の目的	<p>(1) 特定非営利活動に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 運動指導教室企画・運営事業</li> <li>② 運動指導者育成事業</li> <li>③ スポーツ普及啓発事業</li> <li>④ 生涯スポーツに関する事業</li> <li>⑤ まちづくりの推進に関する事業</li> <li>⑥ その他この法人の目的を達成するために必要な事業</li> </ul> <p>(2) その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 物品販売事業</li> </ul>
団体の活動・業務（事業活動の概要）	<p>仮設住宅の支援員や行政と連携しながら、仮設住宅での運動教室や移動支援を行っている。</p> <p>運動や外出支援が必要な方や閉じこもりがちの方には普段から接している支援員を通じて呼び掛けて頂き、参加を促している。</p>
現在特に力を入れていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティづくり</li> <li>・孤立防止</li> </ul>
今後の活動の方向性・ビジョン	—
定期刊行物	—
備考	—

#### <活動実績>

助成金・補助金・物品等、他の組織から受けた支援の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」</li> <li>・Think the Earth 「忘れない基金」</li> <li>・三重県「FAMIE」様</li> <li>・独立行政法人福祉医療機構「WAM助成」平成27・28・29年度</li> <li>・岩手県「平成28年度 NPO等による復興支援事業費補助金」</li> </ul>
他のNPO・市民活動団体との協働、他の学協会との共同研究・協働の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハネウエル居場所ハウス「けんこう体操」</li> <li>・JAおおふなと「温泉ミニデイサービス」</li> <li>・YSセンター「生きがい健康づくり事業トレーニング指導」</li> </ul>

企業・団体との協働・共同研究の実績	—
行政との協働（委託事業など）の実績	<p>業務委託は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度 元気アップ↑教室 - 冬の貯筋運動 - （大船渡市）</li> <li>・平成 27 年度 住田町食改善推進委員養成校講座「メタボリックシンドロームを予防する運動」</li> <li>・大槌町高齢者等見守りネットワーク構成事業</li> <li>・平成 28 年度 元気アップ↑教室 - 筋トレで脳力アップ - （大船渡市）</li> <li>・平成 27・28 年度 筋力向上教室（大船渡市）</li> <li>・大船渡市 地域サロンへの講師派遣事業への講師登録（健康運動指導士）</li> <li>・平成 29 年度 元気アップ↑教室-運動で「脱心身の老化」宣言-（大船渡市）</li> </ul>

#### <収支報告>

平成 27 年度以降の収支報告は表 57 のとおりである。

表 57：収支報告

<収入の部>		前々年度（平成27年度）決算	前年度（平成28年度）決算	当年度（平成29年度）予算
内訳	会費	14,000円		
	寄付金	99,460円	650,000円	
	民間助成金	3,283,057円	6,037,000円	
	公的補助金		3,600,000円	
	自主事業収入		68,700円	
	委託事業収入	1,228,000円	4,553,288円	
	その他収入	171円	150,946円	
当期収入合計		4,610,688円	15,059,934円	
前期繰越金		389,700円	521,515円	
<支出の部>		前々年度（平成27年度）決算	前年度（平成28年度）決算	当年度（平成29年度）予算
当期支出合計		4,478,873円	14,919,449円	
内人件費		2,452,091円	9,999,823円	
次期繰越金		521,515円	662,000円	
備考				

出典）特定非営利活動法人さんりく WELLNESS：財政・収支報告書・貸借対照表<sup>35</sup>

<sup>35</sup> <http://fields.canpan.info/organization/detail/1302837503#finances>

### <貸借対照表>

平成 28 年度の貸借対照表は表 58 のとおりである。

**表 58 : 貸借対照表**

<資産の部>		前々年度（平成27年度）決算	前年度（平成28年度）決算
内訳	流動資産		2,190,059円
	固定資産		
資産の部合計			2,190,059円
<負債の部>		前々年度（平成27年度）決算	前年度（平成28年度）決算
内訳	流動負債		1,528,059円
	固定負債		
負債の部合計			1,528,059円
<正味財産の部>		前々年度（平成27年度）決算	前年度（平成28年度）決算
内訳	前期正味財産		521,515円
	当期正味財産増減額		140,485円
当期正味財産合計			662,000円

出典) 特定非営利活動法人さんりく WELLNESS : 財政・収支報告書・貸借対照表<sup>36</sup>

### <組織運営>

意思決定機構：理事会

役員・職員の内訳は表 59 のとおりである。

**表 59 : 役員・職員の内訳**

役員・職員内訳		役員数	事務局スタッフ数
有給	常勤		2名
	非常勤	3名	5名
無給	常勤		
	非常勤		
常勤職員数			3名
役員数・職員数合計			10名
イベント時などの臨時ボランティア数			

出典) 特定非営利活動法人さんりく WELLNESS : 組織運営<sup>37</sup>

<sup>36</sup> <http://fields.canpan.info/organization/detail/1302837503#finances>

<sup>37</sup> <http://fields.canpan.info/organization/detail/1302837503#management>